



広報

もがみ

平成23年

2011

No.724

7月

■ 今月の主な内容

中村名誉町民合同葬 P.2

自然環境現況調査会 P.4

東日本大震災 P.5

まちの話題 P.6

ふるさと日記 P.10

健康福祉課からのお知らせ P.15

町議会議員選挙 P.18

知事と語る市町村ミーティングinもがみ P.19

今月の納税は、

固定資産税第2期と

国民健康保険税第1期です。



さあ、今日はわしらの出番だ！

堺田老人クラブによるフェリシモの森下草刈り作業

※次回の年金相談日は8月9日(火)です。

発行/山形県最上町総務課まちづくり推進室 編集/広報もがみ編集委員会

東 日 本 大 震 災

町社会福祉協議会が有志を募りボランティアを実施

6月19日と7月3日、町社会福祉協議会が有志を募り東日本大震災支援のため石巻市でボランティアを行いました。

6月19日には町内から高校生を含む19



人が参加し、7月3日には10人が民家の泥出しの作業にあたりました。両日とも支援先の一帯は海の近くで、周りを見渡すと津波での被害が甚大であることが窺えました。参加者たちは家の中や外にある家財道具を運び出し、泥を土嚢袋に入れ、道路脇等によせました。よせられた土嚢袋の数は2日間あわせると500以上になり、津波で運ばれた泥の量が想像以上だということを知られました。後日、依頼主の1人から、「暑い中作業していたありがたいとございます。みなさんが懸命に作業にあたってくださる姿をみて、私も頑張っていこうという気持ちになりました」とお礼の手紙をいただきました。

新たな絆が生まれました 第2回majorイベント

森の中の輪へわ〜和へわ〜笑へわ〜コンサート

7月17日、森の中の輪和笑コンサートが前森高原の野外ステージで行われ、観客150人が詰め掛けました。

コンサートでは、津軽三味線の流れ星（桂紀寿忠代表）と気仙沼市本吉町の大谷大漁唄い込み保存会（及川善正会長）が出演し、演奏や唄を披露しました。このコンサートが開かれたのは、東日本大震災の支援として町と町観光協会が行なったリフレッシュプラン（町内の温泉へ2泊3日の無料招待）を利用した本吉町の方が最上町にお礼をしたいと三部陽堂さんに連絡をとったことがきっかけとなりました。三部さんは、父親で松林寺の義道住職とボランティアサークル「公益法人ボランティア国際ボランティアサークル」を通じ、立小路の夢虫の会や黒澤餅搗唄保存会のみなさんとともに東日本大震災で被災した本吉町に炊き出しの支援を行い、本吉町と縁のある方です。三部さんと親族の石山登さん（向町4）は、そういうことであれば、本吉町の大漁唄い込みをみんなの前で披露してはどうかとの話になり、町内で協力者を募り、流れ星の桂紀さんを加え、コンサートが実現しました。



大漁唄い込みでは、恵比寿様が鯛を釣り上げる場面も

開会式で、本吉町の及川さんは、「この度の震災で最上町のみなさんからは、町をあげての支援をいただき、お礼申し上げます。これを機会に最上町との交流を続けていきます」とあいさつすると、会場から大きな拍手が沸きあがりました。コンサートは、三味線の演奏で幕開け。流れ星が演奏する小気味のいい音に観客は大きな拍手を何度も送りました。演奏が終わると、桂紀さんから「花笠音頭を一緒に踊りましょう」と、花笠音頭の踊りと三味線の演奏で観客を楽しませてくれました。その後、本吉町のみなさんがカツオのたたきとアラ汁を観客に振る舞い、とびきり新鮮なカツオに舌鼓を打ちました。コンサートのとりを務めたのは、本吉町の大谷大漁唄い込み保存会のみなさん。大漁唄い込みは、昔通信手段がなかった頃、港に帰ってくる漁師たちが沖の船の上から、帰りを待つ家族に大漁を伝えるために唄っていたもの。櫓を舟の甲板に見立てたステージの床にぶつけ「ドンドンドン」という音と漁師たちの「よいよいよいのさ」のかけ声を響きわたらせ、元気な姿を私たちに見せてくれました。

7月13日現在、町・県共に放射線量について人体に影響はありません。

◇当町の放射線量（太字は7月13日の測定値。6月28日から旧瀬見小学校でも測定を始めました）

旧瀬見小学校		大堀小学校	
毎時0.08マイクロシーベルト			
【地上50cm 0.08μSv/h 地上1m 0.08μSv/h 】	【地上50cm 0.08μSv/h 地上1m 0.07μSv/h 】	【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.07μSv/h 】	【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.06μSv/h 】
（6月28日）【地上50cm 0.08μSv/h 地上1m 0.07μSv/h】		（6月16日）【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.07μSv/h】	
最上中学校		赤倉小学校	
【地上50cm 0.08μSv/h 地上1m 0.08μSv/h 】	【地上50cm 0.09μSv/h 地上1m 0.08μSv/h 】	【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.07μSv/h 】	【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.08μSv/h 】
（6月28日）【地上50cm 0.09μSv/h 地上1m 0.08μSv/h】		（6月28日）【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.07μSv/h】	（6月16日）【地上50cm 0.07μSv/h 地上1m 0.08μSv/h】
（6月16日）【地上50cm 0.09μSv/h 地上1m 0.09μSv/h】			

文部科学省が示している「校舎・校庭等の利用判断における暫定的な放射線量の目安は当面、1年間20mSv（時間あたりに換算すると3.8μSv/h）未満」と比較すると、当町の放射線量は大きく下回っています。

例えば、屋外の空中放射線量が0.11μSv/h（4月25日の最上中での測定値）の場合で1日のうち屋外8時間、木造家屋内で16時間過ごしたときの1年間の放射線量を試算すると約0.54mSvになります。

$(0.11\mu\text{Sv/h} \times 8\text{時間} + 0.037\mu\text{Sv/h} \times 16\text{時間}) \times 365\text{日} = 537.28\mu\text{Sv} \approx 0.54\text{mSv}$

※1mSv=1,000μSv（1ミリシーベルトは、1,000マイクロシーベルト）

※屋内（木造家屋）の放射線量は、屋外の40%とされています。